国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

事実をもっと知り、人間らしく生きるために、声を上げていこう

日刊 動労千葉

1988.8.26

No.2780

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

家族会連続講座第2回開催

第二回家族会連続講座が八月二十一日（日）開催されました。映画「人間をかえせ」上映した後、動労千葉顧問弁護団の福武公子先生に、主に放射能について、そして原子力発電になぜ反対なのかの講演をうけました。先生は講演の中で恐るべき事実を話されました。

第一に、政府の放射能許容制限値のつくり方のなんといいかげんで、なんと恐ろしい事か。アメリカにならえであって、労働者百万人当たり五十人位なら死んでもよいだろうと基準が決められたのであり、東南アジア各国の十～二〇倍の甘い基準である事。

第二には放射能が体内に入り込むと、さまざまな部分に蓄積され、細胞を破壊し、ガン、白血病、その他重い障害を起こす。そして私達が日常食べているスパゲティ、マカロニ、肉、豆、チーズ、チョコレート、ナッツ類とほとんどが高度に汚染された輸入品であること。

第三に、原発大国と言われ、多くの原子力発電を持っている日本は、今秋運転されようとしている原発を数えて三七基ある。その原発が毎日大量に出し続けている放射能と放射性廃棄物、また二十数年が寿命といわれる原子炉は多くが老朽化しているにもかかわらず今だ処置方法すら明らかにされないまま、どんどん危険な核のゴミを製造しつづけているという事実。

チェルノブイリのような事故が、日本でもいつ起きても不思議ではないのです。

そして今、原発反対を声にしているのは、生活に根付いている主婦であり、子供達のために、立ち上がらざるを得ないのではないのではないでしょうか。

人間が人間らしく生きてゆくために、政府のメチャクチャな政策に対し、家族会もこの恐ろしさを知った今、声を上げていこうではありませんか。

営業協議会申し入れ（申30号）で交渉－8月8日

動労千葉は、ＪＲ東日本千葉支社に対し過日申し入れた『申三十号』に関して、八月八日に団交を行なった。

動労千葉営業協議会が中心になって初めてかちとられたこの団交は、本部と営業協議会各地区役員が出席して『営業関係の改善要求』について二時間にわたり行なわれた。

席上、組合側は当局に対し、この間の運転から営業への強制配転の怒りを含めて、配転先の駅・売店でたたかっている組合員の声としての要求を概要つぎの様に突き付けた。

食事・休憩時間を完全に確保すること。
冷暖房・休憩室等各種設備を充実させること。
営業係として制服を同一化すること。

この要求に対して支社営業課は、

「休憩時間は確保されているはずだ。冷房等については、予算上困難である」

「売店社員も、ＪＲ職員には違いないけれど（ママ）、他の営業係と同一の制服は必要ない」等と、全く不誠実かつ差別的な解答をしてきた。

この様な解答ならざる解答を許さず反論を加え、

「現実に休憩時間が確保されていない現場があれば指導する」

「各種設備、制服等については検討・上申する」

ことを確認し、さらに今後の団交を要求してこの日の団交を終了した。

＝営業協議会通信員発＝